

# 第6回平和市長会議被爆60周年記念総会

## 閉会式

2005年8月6日(土) 15:40~17:20

広島国際会議場ヒマワリ

### 進 行

秋葉忠利(平和市長会議会長、広島市長)

### ヒロシマアピール審議経過説明・進行

最上敏樹(全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長、国際基督教大学教授)

### 発 言 者

ゲーリー・ムーア(平和市長会議副会長、クライストチャーチ市長・ニュージーランド)

スチュワート・ケンプ(マンチェスター市首席政務官・イギリス)

ハーベ・ブラーミー(セーヌ・サンドニ県会議長・フランス)

アーロン・トビッシュ(2020ビジョン・キャンペーンマネージャー)

ミシェル・シボ(マラコフ市事務総長・フランス)

ゴードン・マサソン(グラスゴー市長代理(市議会議員)・イギリス)

アラン・ウェア(分科会Iチェアパーソン、反核国際法律家協会コンサルタント)

### ヒロシマアピール朗読

モハメド・アフザル・カーン(平和市長会議副会長、マンチェスター市長・イギリス)

### 閉会挨拶

ヘルベルト・シュマルスティーク(平和市長会議副会長、ハノーバー市長・ドイツ)

カトリーヌ・マルガテ(平和市長会議副会長、マラコフ市長・フランス)

平和市長会議会長 秋葉忠利（広島市長）：

皆様、それでは第6回平和市長会議被爆60周年記念総会の閉会式を始めます。皆様のご協力に感謝申し上げます。

まず初めにご報告ですが、今回の会議は非常に成功を収めることになったと思います。全体としては、243名の参加を得ました。日本から61名38都市、海外からは144名54都市・4団体、全部で19か国の参加をいただきました。そして、欧州議会を含め、各国政府の代表18名にご参加いただきました。各国政府の参加がなかったという指摘がありましたけれども、18名にご参加いただきました。

私から感謝の言葉を皆様に述べたいと思います。本当にどうもありがとうございました。唯一残念なのは時間が十分ではなかったことです。さらに多くの参加を、皆さんにそれぞれしていただくことができなかつたのは、残念なことではございました。しかし、多くの発言、貢献は、各都市での体験・活動・経験等に基づくものであったと思います。その多くは、新しい考え方を示唆していただくものでもありましたし、これから先の方向性について、核廃絶を2020年に向けてどのように推進していくべきかについて、新たな考え方等もいただきました。それと同時に、疑問なども提示されたということです。

しかし、これらの発表、ご意見は皆、示唆に富んだものであり、我々にエネルギーと洞察力をいただくものになったと思っております。また、我々が努力を続けていくための決意をさらに強くすることにつながったと思います。

二つほど申し上げます。まず、皆さんの貢献、参加が、なぜそのような形で我々に力を与えてくださったのかということです。市長として、あるいは市議会議員として、あるいは様々な団体の代表として、皆様の日々のお仕事というのは、これまでもそうですが、これからも市民を動機づけし、活動を促していくためにエネルギーを与えることにあります。そのため、皆さんは地元の問題に想像力を持って取り組んでおられます。この会議の場でお話いただいた皆さんの活動は素晴らしいものでした。このように皆様の手腕を示していただいたことに感謝申し上げます。

二つ目としては、やはり皆さんが市民の声を代表していらっしゃるということ、各団体の声を非常によく代表していらっしゃるがよくわかりました。単に声だけでなく、これまで、皆さんの都市の市民が、どのような活動をしておられるのかということについても、代表して声を出していただいたことにとっても感謝したいと思います。

ここでは抽象論ではなく、具体論で、具体的な問題として、各市民が一体どのような問題に直面しているのかということについて語ることができました。だからこそ、我々は政府の目から見た時に、そして国際機関の目から見ても説得力を持つのだと思います。それらの経験が我々に強

さを与えてくれたと思いますので、その強さを活用して、さらに我々の目標達成に向けて邁進していきたいと思います。

以上を申し上げたうえで、さらに我々はこれから先も一生懸命やっていきたいと思いますということで、4年後の次の総会まで、日々お互いに努力したいと思います。新しい行動計画のもと、8月6日から次の年の8月9日までをキャンペーン・イヤーということで、会計年度でもなく、学業年度でもなく、キャンペーン・イヤー、アクション・イヤー、あるいはヒロシマイヤー、ナガサキイヤーという名称で呼んでもいいと思います。これから我々が使う369日、すなわち8月6日から次の年の8月9日までを、例えば「ヒロシマ・ナガサキイヤー」と呼んで、これからも活動していこうではありませんか。そして毎年、行動計画を立ててやっていきたいと思います。

この総会においては、これまで達成したことをアピールという形でまとめております。ヒロシマアピールということで、皆様のお手元には案が配布されているかと思っております。そこで、アピール起草委員会の委員長をお務めいただきました最上先生にお願いをしまして、このヒロシマアピールの起草委員会での審議経過の説明をお願いしたいと思います。最上先生、お願いします。

#### **全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）：**

説明をさせていただきます。起草委員会は昨晚、会合を持ちました。夜中の12時位までかけて、このアピールの作成に当たりました。できるだけ皆に受け入れられる内容にするために詰めました。そこで、この内容を簡単にご説明します。

前文としては、6段落あります。このアピールでは、過去4年間を振り返りまして、残念ながら核軍縮の過程が暗礁に乗り上げてしまっていること、また現在の世界の状況は、悪化の一途をたどっていることを残念に思うと述べています。そして、このアピールの中で、我々はこの悪化する状況を決意を持って改善していくのだと謳っております。それが、最初の六つの段落の語っているところです。

これらの段落においては、一つ深刻な問題がありました。そこで、ここの場で修正をお願いしたいと思います。「市民社会は」という四つ目の段落です。実は昨日の夜も、この段落に関して議論がかなり白熱しました。委員の中には、特定の国の名前を明記することに異論を述べる人もいました。逆に、「具体的に名前を挙げたほうがいい」と言う人たちもいました。

2行目において、「米国その他、核兵器国の戦略によって」と、最初はアメリカだけが出ていたのですが、実はこの組織にも非常に大きな貢献をしてくださっている全米市長会議のコックラン事務局長が、彼の国が唯一出されていることに懸念を表明されました。もちろん、これはかなり深刻な議論がありまして、これでもって妥協しようということになったわけです。コックラン氏

と秋葉会長と私の間で話をしまして、我々も状況は理解しました。アメリカの全米市長会議の大いなる貢献を受けまして、ここで我々は物事を複雑にすべきではない、アメリカにおける組織の活動を複雑化しては困るということで、その懸念を共有して、秋葉市長が今朝の平和宣言の中で述べられた国を全て明記することにしました。

もし、その提案でよろしければ、アメリカ、英国、フランス、ロシア、中国、インド、パキスタンと平和宣言に出ておりますが、これらの国々を明記する形にしたいと思います。もし大きな異議が述べられるのであれば、それにも耳を傾けなければいけません、もしそのような異議が大きなものでなければ、そういった形で提案したいと思います。よろしいでしょうか。ご承認いただけますでしょうか。(拍手)

それでは、大多数の方にご承認いただいたと判断いたします。それでは、そのような形でアピールの文言を修正します。それが最も大きな問題でした。議論は誠実に行われ、非常に生産的な議論であったと私は思っております。したがって、それ以降は議論もスムーズに進みました。最初の六つの段落の後で、平和市長会議参加者から各国政府あるいは国際機関などへの要求として、アピールを6点明記しています。

第1として、2020年までの核兵器廃絶を実現するため、核兵器禁止条約の締結に向けた交渉を開始すること。

2点目として、核保有国が核兵器の実戦配備を即時解除すること。

3点目として、各国政府の指導者に広島・長崎の両市を訪問してほしいということ。

4点目は、各国政府が核軍縮だけではなく、例えば飢餓、貧困、差別等の地球的規模の諸問題解決に向けて積極的に取り組んでほしいということ。

5点目は、世界各国の政府が、京都議定書の完全実施、その他環境問題に対する取組みを推進すること。

さらに6点目として、軍事費の削減・縮小でもたらされる資金を有効に活用すること。

これが六つのアピールにおける我々の要求事項です。それを受けて、このアピールはさらに、次の六つの点を指摘しております。これは、我々自身の組織としての活動に関係するものです。要求事項ではありません。

第1に、2010年のNPT再検討会議までに、各国政府が核兵器禁止条約を成立させるように活動を強化する。

第2点目は、この平和市長会議加盟都市のネットワークの組織を強化すること。

3点目は、他の主体であります。世界の多くの国のNGOや大多数の市民とともに核兵器廃絶に向けた活動を進めていくということ。

4点目は、国連総会の第一委員会が、核兵器のない世界の実現と維持とを検討する特別委員会を設置するように働きかけることです。

5点目は、被爆者のメッセージを人類共通の財産として広く深く世界の人々に伝えていくということ。そのために広島・長崎講座を開講するように、世界の大学その他の教育機関に呼びかけるということ。

6点目は、平和文化を深めるために、あらゆる段階において平和教育を推進するという内容です。

したがって、これが実質的なアピールの内容です。一つ説明しておかなければいけない点は、被団協をノーベル平和賞にノミネートするということですが、多くの支持者を得ております。これは非常に良い提案であると思いますし、我々もそれを真剣に考え、支持していく立場を取っております。

しかし、それがこのアピールの中に盛り込まれなかった理由は何かといいますと、他の点に多くの時間を費やさざるを得なくなりましたので、この良い提案について、真剣に盛り込むまで作業を進めることができなかったということです。私は、個人的に良い提案だと思いますし、そのような提案をしてくださった方に感謝したいと思います。しかし、技術的な理由のために、盛り込むことができませんでした。

もう一つ、その提案をもう一度考え直してほしいという要請を受けました。秋葉市長も、その提案に関しては感謝しているけれども、今回はこのアピールに盛り込むのは延期しようということになりました。というのも、やはり政治的な困難が若干伴うかもしれないということに考慮してのことです。

一番簡単な言い方で言いますと、例えば、この会議は広島市と長崎市の密接な協力のもとで運営されています。したがって、広島市の団体をノーベル委員会に推薦することはいいことですが、長崎の人々についても平等に考えていかなければいけないということです。両市の団体がノーベル平和賞を受賞するのであればいいのですが、この限られた時間の中で、そういった複雑な状況を全て検討することができなかったので、その提案を本日のアピールに盛り込むことはできなくなりました。

ただ、前向きの動きとして、広島・長崎の両市において、そのような提案を実現すべく、これからも活動が行われていくと思いますし、我々もそれを支持することになると思います。残念ながら、このアピールには盛り込むことができなかったことをご報告したいと思います。

これがヒロシマアピール案の大ざっぱな説明です。そこで、もし質問があれば受けたいと思います。大きな問題があれば、どうぞご質問ください。

**平和市長会議副会長、クライストチャーチ市長 ゲーリー・ムーア（ニュージーランド）：**

ゲーリー・ムーアです。クライストチャーチ市の市長です。一つ、私がここに追加してほしいことがあります。我々はいろいろな提案をすることができますけれども、事務局がなければ実際に動くことがない。そして、広島と長崎の善意がなかったら、我々はこちらに集うことはできないわけです。したがって、我々は責任を分担する用意がなければいけない。すなわち、国際的な貢献を行うためにも、何らかの形式が必要だと思います。

ここにいる我々は、様々な運動の当事者となってきました。運動というのは組織がなければ動きません。ですから、これは秋葉市長にも提案しましたが、運動を推進するためには国際事務局が必要だと思います。それによって、さらにこの平和市長会議の運動を広げていくことができると思います。そして、我々役員がそれを実現する責任を担っていると思います。

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）：**

それを第7点目として含んでほしいということですか。第1点目としてでしょうか。それは非常にいい修正だと思います。提案というのは、ここにもう一段落入れるということです。それはローマ数字Iの前に、新しいローマ数字Iとして入れる。すなわち、運動を推進するために、国際事務局を設置する。そして、それが平和市長会議を推進するための役割分担を担う。これについて何か議論がありますか。よろしいでしょうか。（拍手）

これに関しては技術的な問題が残ってくると思います。詳細にするためには起草委員会ではないといけないのですが、もうできません。それでは、少し技術的な問題として残ってしまいます。この提案はよい提案だと思いますので、後で議論します。この議論をするための委員会を招集したいと思います。拍手をいただきましたが。はい、どうぞ。

**マンチェスター市首席政務官 スチュワート・ケンプ（イギリス）：**

議長、初めに理事会を開いた時に、将来の財務をどうするかという点が指摘されました。秋葉市長がおっしゃいましたように、この2～3年の間に、メンバーに対してどのように資金を賄っていくかという相談があるということだと思いますが、その文脈とも一致すると思うのです。そのようなことも併せて、この組織のやり方を話し合える機関が要ると思うのです。是非、この点について、さらに議論を深めていただきたいと思います。つまり全加盟都市が、さらにこれを進めていくためにどのように貢献できるかということです。どうもありがとうございます。

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）：**

私は理事会には出席していませんでしたので、どういう状況かわかりませんでした。そういったことがあったらならば、いいですね。では、この部分に関しては、アピールでいいですね。これは後で話し合うということによろしいでしょうか。重要な提案が、今の時点で何かありますか。起草委員会が出したヒロシマアピール案に対してのご提案はありますか。

**セーヌ・サントニ県議会議長 ヘーベ・ブラーミー（フランス）：**

セーヌ・サントニのブラーミーです。政府の責任について言及している段落ですが、調印した国はミレニアム宣言の調印もしています。このミレニアム宣言の中では第2章というのがあって、平和、軍縮、そして安全保障について言及されています。この章の後、10個ほどの提案が出されていますが、この宣言に調印している国は、例えば大量破壊兵器による危機について対応するということを書いてあるわけです。ミレニアム宣言ではありますが、第1点について政府が交渉を始めるということを書いてあります。

したがって、この問題は「ミレニアム宣言の責務に応じて」という形で、文言の挿入をお願いできればと思います。「ミレニアム宣言の中に盛り込まれている責務に引き続いて」というような表現です。

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）：**

ミレニアム宣言という形で、総会で出ている宣言があるようですね。その宣言の名前をこの中に入れるということだと思います。それはどこの数字の所に入れるということでしょうか。これは絶対に必要なことですか。アラビア数字の1の所ですか。この修正案はどうしても必要なものですか。「あまり必要ない」、「ノー」という声もありますが。

**セーヌ・サントニ県議会議長 ヘーベ・ブラーミー（フランス）：**

私の考えでは、この段落のアラビア数字の1です。政府の多くはミレニアム宣言に調印しています。その中で、先程申し上げたように、核兵器廃絶のことも書いてあるわけです。ミレニアム宣言には「大量破壊兵器の危険を避けるために努力することを約束する」と書いてあります。大量破壊兵器の廃絶、中でも核兵器の廃絶について、それを目的として努力を傾注すると書いてあります。ミレニアム宣言と内容が全く一致しているということで、このパラグラフ、アラビア数字1の部分にミレニアム宣言を挿入したいということです。

**2020ビジョン・キャンペーンマネージャー アーロン・トビッシュ :**

いくつかのテキストの文章で、核兵器についてこのように約束したのがあります。NPTの6条もしかりです。これは法的な拘束力があります。国際司法裁判所（ICJ）の勧告的意見もあります。そのような文章の元はどこにでもありますので、このような引用は、それほど強くないと思うのです。これに関しては、核の恐怖を取り除くということであって、核兵器を廃絶するという交渉ではないのです。私どもはここで、核兵器の廃絶を言っているのですから、この引用をこの段落に入れますと、余計に複雑になると思います。

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）:**

はい。

**マラコフ市事務総長 ミッシェル・シボ（フランス）:**

私が申し上げたいのは小さな条項です。ノーベル平和賞を受けた人々に広島・長崎に来ていただきたい、ご招待したいと付け加えていただき、平和市長会議の大使になっていただきたいと思うのです。今までノーベル平和賞を受けた方々も市民です。しかも・・・

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）:**

勝手に話を始めないでください。

参加者の皆さんを見ている限りでは、入れる必要はないという意見の方が多いのですが、まずそのことを話しますので、ちょっと待ってください。いいですか。別の話をしないでください。

先ほどのご意見について、いかがですか。核兵器を禁止するための法的な根拠を言うならば、他にもたくさんあるので、これだけに言及するのも、やや不都合ではないかという意見ですけれども、どうでしょうか。

それでは、基本的に原案を大きく変えることがどうしても必要でないのであれば、それはなるべくやめていただきたいというお願いをしておりますので、その方針に従って、必要不可欠でないものは入れないということで、今回はご了承ください。

それでは、この案文について他に・・・。全く何もないもの、新規提案はよほど必要でない限り、できるだけ控えていただきたいのです。皆それぞれ欲しいものはたくさんありますし、理想もたくさんありますから、それぞれのことを言い出したら、また切りがなく、4時間も5時間も続けなければならなくなります。

昨日、既に4時間かけてやったわけですから、できるだけそれを尊重してください。昨日、夜



中の12時過ぎまでやった人たちは、それをもう一度やらなければならない。もう一度申し上げますが、我々が我々自身を非人道的に扱ってはならないというのが原則です。ぜひ、それで行きましょう。

**2020ビジョン・キャンペーンマネージャー アーロン・トビッシュ :**

簡単に建設的に申し上げます。今朝、秋葉市長は「今年を継承と目覚め、決意の年にする」とおっしゃいました。我々のアピールの中で、それを言わないのはおかしくありませんか。「今年を継承と目覚め、決意の年にする」と言わないのは、おかしいと思うのです。場所としては、最初のコンマの所がいいと思います。最後の六つの責務が出てくる所がありますが、ローマ数字の六つが出てくるところの、「私たちは」から始まるところに、「今年の継承と目覚め、決意の年に、我々は協力し、これらのことに重点的に取り組む」と書くべきだと思うのです。秋葉市長がこのようにおっしゃったわけです。この組織が、このような宣言をするということをちゃんと書いたほうが、このアピールの強みが出ると思います。(拍手)

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹 (国際基督教大学教授) :**

他の方々からも、同じ提案が出ています。また、拍手も出ましたので、この中にその修正動議を入れるということによろしいですか。では、入れます。

他にご提案はありますか。最後のものはどうでしたか。ローマ数字のIの前の所に入れるという提案でした。こちらのほうは「核兵器廃絶と世界恒久平和の実現のため・・・」。

トビッシュさん、やっていただけますか。皆さんに聞こえるようにマイクを使って言ってください。

**2020ビジョン・キャンペーンマネージャー アーロン・トビッシュ :**

この段落の最初の動詞は‘to advance’という形にします。‘achieve goal’ではなくて、進ませる(advance)です。

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹 (国際基督教大学教授) :**

さらなる修正動議はだめです。

**2020ビジョン・キャンペーンマネージャー アーロン・トビッシュ :**

achieveではなくてadvanceに動詞を変えるということです。あとは一緒です。そのあとで、

「継承と目覚め、決意をこの年に」と入れます。

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）：**

いろいろな言語で、文言の作り方がいろいろ違うと思いますので、私はトビッシュさんのおっしゃったことは繰り返しません、彼の言ったことを了知するというので、事務局でうまく調整させていただき、修正文章を作ります。これでよろしいでしょうか。

**マラコフ市事務総長 ミッシェル・シボ（フランス）：**

議長、時間の制約があることはもちろんわかります。しかし、全ての人間が起草委員会に出席したわけではありません。また我々は、人によってはかなり遠いところから来ているわけです。ですから、時間の制約があるからといって、提案をすぐに拒否していいというものではないと思います。特に建設的な提案だった場合はそうだと思います。

先ほど私は申し上げましたが、1点追加できるのでないでしょうか。つまり、ノーベル平和賞の受賞者を、広島と長崎に招待してはどうか。そして、彼らに平和市長会議の大使になってもらえないか。というのも、これは地方自治体の住民の代表だからということです。また、ノーベル平和賞を受賞した人たちは大変な影響力を持っています。彼らがメッセージを伝えることで、非常に有益な仕事をしてくれます。現在の我々の闘いの、必ずや大きな支援になってくれますので、その1行を加えてくれとお願いしているだけです。

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）：**

取り上げないということではなくて、全くこれまで検討されていないものが急に出てきても、皆さんも、十分に考えていないから大変だということです。その点はわかってください。今の提案は、ノーベル平和賞の受賞者を広島に招くべきだという一文を入れたらいいというご提案ですが、いかがですか。（拍手）

拍手が全員ではないですが、半分以上の方から聞こえてきました。何か意見のある方はいますでしょうか。

**グラスゴー市長代理（市議会議員）ゴードン・マサソン（イギリス）：**

この具体的な提案は、理事会に出すべきだと思うのです。そのために、役員都市を選んでいるわけです。批判的な形の声明にするつもりではないのです。私はこの提案に反対しているわけではありませんが、この宣言の重要な内容のところにかかわってくるものではありませんので、こ

ういったことは理事会で検討していただければけっこうなことです。

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）：**

拍手が多いようですが。

**分科会 I チェアパーソン アラン・ウェア（反核国際法律家協会コンサルタント）：**

私から提案があります。このような提案に関しては、皆さん、素晴らしいアイデアをお持ちだと思うのです。全体会議の1日目のところでプログラム計画を話して、いくつかのアイデアがありました。いろいろなアイデアが出てくる可能性があるから、アピールに書かなくてもいいのです。これからどういった行動をやっていくかという中に入れ込むべきだと思うのです。ですから、こういったアイデアについては、この宣言の中に入れるものではない。我々は宣言について何か問題がないかどうかを確認して、確認していただいたうえで問題がなければ、もうここで採択しましょう。

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）：**

これからの行動計画で皆さんが検討されて、その中に入っているのだから、それでいいのではないか、もし政策としてこれから実施していくのであれば、まずは理事会で議論すべきだというのが、今の二つのご意見ですが、大体その辺でいかがでしょうか。

他にもこういうことをしたい、ああいうことを付け加えたいということは、たくさんあると思いますが、今それを一つ一つ、全くこれまで考えられていなかったこと、あるいはこの機構の会長、その他によって言われていなかったことを急に付け加えるということは確かに難しいことがあります。皆さんそれぞれ、こうしたい、あれを実現したいというのがあるのはよくわかりますが、この機構の仕組み、働き方を一応尊重したうえで、今回はアピールを採択したいと思いますが、納得していただけますか。（拍手）

ありがとうございます。それでは、それ以外に本当に必要不可欠な、このままでは致命傷になるような問題が、もしテキストの中にありましたら、ご意見を。

トビッシュさんがおっしゃったことに関して、小さいさらなる修正案があります。「今年」とおっしゃいましたけれども、これは4年間使われる文章ですので、その部分を簡単に修正しなければなりません。その部分はどうぞ了知してください。

では、全体として、このアピールをこの会議で採択していただけるかどうかを諮りたいと思います。採択は、手を挙げてお願いします。

—挙手—

**全体チェアパーソン、アピール起草委員会委員長 最上敏樹（国際基督教大学教授）：**

ありがとうございます。過半数の方々が手を挙げていただいたと思います。

では、これをもちましてヒロシマアピールが採択されたものとします。（拍手）

ありがとうございました。少し先走ってしまったこともあったかもしれませんが、正式にアピールを採択するために、マンチェスターのカーン市長から読んでいただきたいと思います。何を採択しているかを理解するために、読んでいただきたいと思います。

**平和市長会議副会長、マンチェスター市長 モハメド・アフザル・カーン（イギリス）：**

市長、ご来賓の皆様、ヒロシマアピールです。

私たち世界20か国92都市・4団体の代表は、広島市で開催された第6回平和市長会議被爆60周年記念総会に参加し、「核兵器廃絶に向けた都市の役割と取組み—2020年の核兵器廃絶を目指して—」を基調テーマに討議を重ねた。

私たちは、本年5月のNPT再検討会議が具体的成果を得られなかったことを受けて、核兵器廃絶への新たな道筋を明らかにするために総会に臨み、活発な議論を行った。

4年前の第5回総会では、21世紀を全ての命が大切にされる「人道の世紀」とするため努力することを確認した。しかし、頻発するテロ攻撃をはじめ、重大な政治的動きにより世界情勢は一変した。そして世界は「報復」と「戦争」の道を歩み続けている。

市民社会は、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国、インド、パキスタンの戦略、北朝鮮の核兵器保有宣言、他の国々による核兵器開発疑惑、テロリストによる核兵器使用の可能性などにより、核拡散と三度目の核兵器使用の危険に直面している。

市民社会に対する脅威は核兵器だけではない。飢餓、貧困、感染症、差別、暴力、紛争、環境破壊など、世界には日常的に生命の危機にさらされている人たちが想像を超える数で存在している。

世界の指導者たちは、こうした現実を知りながらも、国益や経済的利益を優先し、有効な手だてを講じていない。戦争や暴力、環境破壊によって苦しむのは市民である。私たちには、市民の人権と安全を守る責任がある。平和市長会議はこれらの諸問題を解決するため、協力・連帯して活動し、21世紀を「人道の世紀」とするための努力を続けることを改めて確認する。私たちは「核兵器廃絶のための緊急行動」を重ねて主張する。

私たち平和市長会議参加者は、以下のことを求める。

- 1 各国政府が、2020年までの核兵器廃絶を実現するため、「核兵器禁止条約」の締結に向けた交渉を速やかに開始すること。
- 2 核保有国が核兵器の実戦配備を即時解除すること。
- 3 各国政府、特に核保有国の指導者が、広島・長崎両市を訪問し、核兵器が人類に何をもたらすのかを自らの目で確認すること。
- 4 各国政府が飢餓、貧困、差別、暴力、環境破壊などの地球的規模の諸問題解決に向けて積極的に取り組むこと。
- 5 世界各国の政府が京都議定書の完全実施その他、環境問題に対する取組みを推進すること。
- 6 軍事費の削減・縮小によりもたらされる膨大な資金を平和・飢餓・難民・環境などの諸問題解決のために効果的に活用するとともに、産業構造の軍民転換を積極的に図ること。

私たちは、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現のため、「継承と目覚め、決意の年」である今年から、国家、人種、思想、信条、宗教を超えて協力・連帯し、特に以下のことに重点的に取り組む。

- I 2020年までの核兵器廃絶を実現するため、NGO及び各国政府と協力して、2010年のNPT再検討会議までに「核兵器禁止条約」が成立するよう活動を強化する。
- II 各国で平和市長会議加盟都市のネットワークを組織し、自国内で核兵器廃絶に向けた取組みを積極的に行う。
- III 世界の多くの国、NGOや大多数の市民とともに、世界中の都市で核兵器廃絶に向けた多様なキャンペーンを展開する。
- IV 軍縮・国際安全保障を取り扱う国連総会の第一委員会が、核兵器のない世界の実現と維持とを検討する特別委員会を設置するよう働きかける。
- V 被爆者のメッセージを、人類共通の財産として広く深く世界の人々に伝えていくために、「広島・長崎講座」を開講するよう、世界の大学その他の教育機関に呼びかける。
- VI 平和文化を深めるため、あらゆる段階において平和教育を推進する。

私たちは、以上の点を決議し、2020年までの核兵器廃絶を実現するため、世界の市民とともに行動することを誓う。

2005年8月6日 第6回平和市長会議被爆60周年記念総会

皆さん、これをご承認いただけますか。(拍手)

ありがとうございました。

平和市長会議会長 秋葉忠利（広島市長）：

カーン市長、ありがとうございました。このヒロシマアピールを全ての加盟都市にお送りします。また、世界中の各国政府並びに多くの国際組織、国連を含め、その下部組織にも配布したいと思っています。

それでは、この会合の終わりに近づいてまいりましたので、ここで海外から来られた方々から、会議の閉会に当たってごあいさつをお願いしたいと思います。平和市長会議のメンバーとして長く務めてくださり、広島市にとっても親しい友人でいらっしゃる、ハノーバー市長のヘルベルト・シュマルスティークさん、お願いします。

**平和市長会議副会長、ハノーバー市長 ヘルベルト・シュマルスティーク（ドイツ）：**

議長、秋葉市長、ご来賓、ご出席の友人の皆様、「人類を絶滅させるか、人類が戦争を放棄するのか」というのが、まさにアルバート・アインシュタイン、バートランド・ラッセル、その他8人の国際的著名な科学者が、50年前に各国政府に対して問い質したマニフェストの中心的課題です。第二次世界大戦が終わって60年が経った今、広島・長崎に原爆が落とされ、おぞましい結果、破壊がもたらされた今、まだこの問いかけに答えが生まれていません。

しかし、我々は志を放棄してはなりません。21世紀は人道の世紀でなければなりません。ニューヨーク、マドリード、ロンドン、その他世界各地におけるテロは世界を恐怖に陥れ、世界情勢を変えました。しかし、テロを追及し、テロと戦う、そして市民の安全を守る努力は、決して我々が歩を緩めてはいけません。より平和な共存を、様々な出身、人種、文化の中で強調し、そして対立をなくす努力もしなければなりません。

平和のない人生、人々の出会いのない文化は、まさに人生とは言えません。人々は都市に住んでいるのです。だからこそ、私たち市長や市議会議員が、平和が問題になったときに、声を上げなければならない。その権利があるのです。平等、そして平和を理解する、理解を深めるのは日々の活動です。しかし、特に広島において8月6日は、まさに重要な活動です。

私と、ドイツの260を超える平和市長会議のメンバーは、以下のごとく宣言します。

あらゆる形のテロに私たちは反対します。あらゆる暴力と戦争に反対します。核兵器による持続的かつ高まっている脅威に反対します。全ての核実験の停止を要求します。核兵器のさらなる開発中止を求めます。全ての核兵器の完全なる解体を求めます。

次に、アメリカに対してです。ブッシュ大統領、核の威嚇を即時中止せよ。まず、第1ステップを取ってください。次に、ロシアに対してです。プーチン大統領、ロシアが全ての核兵器を放棄する備えがあることを示してください。そして、イギリス、フランス、インド、パキスタンにも同じです。私たちは、北朝鮮にもイランにもイスラエルにも、どの国においても核兵器を持っ

てほしくありません。

ご出席の皆様、私たちが住んでいる世界は一つです。その世界の幸福に対して、私たちは皆、責任を共有しています。なぜなら、私たちはこの世界を子どもや孫たちから借りているにすぎないからです。こうした理由から、ますます多くのお金が軍備や再軍備、死や破壊をもたらす手段に対して使われることに、私たちは反対します。そのお金は、飢餓を克服し、貧困をなくし、世界中の病気をなくすために必要です。エイズに対して取り組むため、差別をなくすために、このお金が必要です。自然環境破壊を止めるために必要です。暴力や難民をなくすために必要です。

しかし、全てが簡単に達成できることではありません。この第6回平和市長会議総会におきまして、我々は全ての力を尽くしてこれを実現しなければなりません。この数日間の出来事は、私たちの将来に対して励みを与えてくれました。この中で、もう広島・長崎を繰り返させることがない現実を実現するために、私たちは決意を持って進みたいと思います。ありがとうございました。

#### **平和市長会議会長 秋葉忠利（広島市長）：**

シュマルスティーク市長、非常に雄弁に熱意を持って閉会の辞をいただき、ありがとうございました。もう一方、長らく平和市長会議を支持してくださり、長き友人であるマラコフ市長のカトリーヌ・マルガテさんをお招きいたします。では、マラコフ市長、お願いします。

#### **平和市長会議副会長、マラコフ市長 カトリーヌ・マルガテ（フランス）：**

ご列席の市長の皆さん、60年前になりますが、この広島と長崎を破壊するという酷い事態が発生したわけです。そして原爆の後、被害者は長年にわたって苦しみを味わうことになったわけです。原爆は人類に対し、人間の文明そのものを破壊することを証明してしまいました。

今朝、被爆者の意見を聞き、平和記念資料館を見て、また感動的な平和記念式典にも出席しました。いろいろな声が聞こえてまいりました。これからの軍縮をどのような形で進めるべきか、いろいろなアピールがありました。広島を忘れてはならない。男の人たち、女の人たち、子どもたち、多くの人たちが一堂に会し、もう決して広島・長崎を繰り返してはならないと主張されました。

そして今日、高橋さんからも、非常に深い感動を引き起こすお話をいただきました。私どものこれからの人類の未来というもの、その文明をいかにしていくかということ、緊張を緩和する、いろいろな紛争を解決する、開発あるいは不平等を解除する、そして不正をなくす。我々が地方政府として約束しなければならないことが、たくさん山積みになっているわけです。

軍事化に歯止めをかけ、逆に平和のための機構を構築していく。この広島での会合が、これからも市民を動員して、平和の構築に、そして現場においてその努力をやっていかなければならないということを証明しました。今まで、ただ単に反対を述べることをやっていたわけですが、これからは新しい文明を構築する。秋葉市長の言われる平和の文化こそが、我々の核からの脅威に歯止めをかけることができるのです。

我々は、これからも記憶をとどめるという義務を持っています。今回の平和市長会議総会を通じて、どのような教育をしていけばいいのかということが明確になりました。これからもフランスにおいては、平和に関心のある自治体とともに、平和文化の育成のためにいろいろなイニシアティブを取っていく所存です。

軍縮をいかにやっていくのか。開発と平和という問題をどのように両立させるのか。世界の各地で膨大な軍事予算が使われている。これをどのように解決したらいいのか。市民が主役として、新しい平和のイニシアティブを進めていくように促すにはどうしたらいいのか。国が軍縮のための前進を実現するように、核兵器を廃絶するように、責務をちゃんと守るように、このような作業にこれからも向かっていく。民主主義と公正と正義の社会に向けて頑張りたいと思います。以上、ありがとうございました。

#### **平和市長会議会長 秋葉忠利（広島市長）：**

マルガテ・マラコフ市長、ありがとうございました。以上で第6回平和市長会議被爆60周年記念総会を閉会します。最後に、ここで皆様にもう一度感謝を申し上げたいと思います。会長としまして、たくさんの皆様に感謝を申し上げたいと思います。

まず、アピール起草委員会の皆様、ありがとうございました。そして基調講演をしてくださった皆様、さらには記念講演をしてくださった方、全体会議・分科会の調整をしてくださったチェアパーソンの方、また発言をしてくださった全ての皆様、さらにこの総会に参加してくださった方々、皆様お一人お一人にお礼を申し上げます。

それから政府の代表の方々、お忙しい中、この総会に参加し、耳を傾け、そして市の代表とのやり取りに参加をしてくださったことにお礼申し上げます。さらに、NGOの方々、疲れることなく、我々とずっとともに努力してくださったことにお礼申し上げます。広島外からわざわざ来てくださった方、時差ぼけを克服してくださった方、いろいろ不都合もあった中で、例えばスーツケースが届かなかつたりとか、いろいろとあったかもしれませんが。それを克服して来てくださった全ての方々にお礼申し上げます。

また、ボランティアの皆様にもお礼申し上げます。そしてNGOの方、それから通訳、技術的



な困難も耐えてくださったことにお礼申し上げます。まだ言い尽くしていない多くの方々が、この会議を可能にしてくださったわけですが、もちろん市の皆さん、長い時間をこの成功のためにかけてくださったことにお礼申し上げます。

以上で総会を正式に閉会します。今夜はフェアウェルパーティーがございますので、その時にはまた直接、皆様とお話ししたいと思います。これから先の4年、核兵器廃絶に向けて2020年を目標に努力を続けていきたいと思ひます。皆様の努力に感謝し、閉会といたします。